



2013年3月期 第2四半期 決算説明会

2012年11月9日
南海電気鉄道株式会社

本日の内容

1. 2013年3月期 第2四半期決算の概要…………… P 2
2. セグメント別の状況(2013年3月期第2四半期) …… P 6
3. 2013年3月期の業績予想 …………… P16
4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況 …… P22





1. 2013年3月期 第2四半期 決算の概要

1. 2013年3月期 第2四半期決算の概要

1) 業績ハイライト

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率	増減理由
営業収益	89,463	89,087	△375	△0.4	●営業収益 東日本大震災や台風からの回復に加え、LCC就航便数増加に伴い、運輸業において増収となったものの、建設業やレジャー・サービス業において減収となったこと等により減収
営業利益	10,555	12,532	1,977	18.7	●営業利益 運輸業における増収に伴う増益に加え、費用削減努力もあり増益
経常利益	6,769	9,226	2,457	36.3	●経常利益 営業増益に加え、支払利息の減少が寄与し増益
四半期純利益	3,606	5,296	1,689	46.9	

1. 2013年3月期 第2四半期決算の概要

2) 資産、負債及び純資産の状況

(単位:百万円)

	2012年3月末	2012年9月末	増減額	増減理由
流動資産	83,535	75,604	△7,931	●流動資産 受取手形及び売掛金の減少
固定資産	706,055	691,151	△14,903	
資産合計	789,591	766,755	△22,835	●固定資産 連続立体交差化工事の竣工に伴う工事負担金相当額圧縮や減価償却の進捗等による有形固定資産の減少
負債合計	653,988	629,778	△24,210	●負債 借入金及び社債、支払手形及び買掛金の減少
純資産	135,602	136,977	1,374	●純資産 剰余金の配当による減少やその他有価証券評価差額金の減少があったものの、四半期純利益の計上により増加
負債純資産合計	789,591	766,755	△22,835	
有利子負債残高	480,346	468,580	△11,765	社債の償還による減少

1. 2013年3月期 第2四半期決算の概要

3) キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	11,913	18,903	6,990	●営業活動によるキャッシュ・フロー 売上債権の減少等による収入の増加
投資活動による キャッシュ・フロー	△7,112	△4,667	2,445	●投資活動によるキャッシュ・フロー 敷金及び保証金の回収等による支出の減少
財務活動による キャッシュ・フロー	△6,872	△14,539	△7,666	●財務活動によるキャッシュ・フロー 社債の発行による収入の減少等による支出の増加



2. セグメント別の状況 (2013年3月期 第2四半期)

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

セグメントの構成状況 (2012年9月末現在)

【連結子会社53社・非連結子会社11社・関連会社6社(うち持分法適用会社3社)】

増減(対 2012年3月末現在)

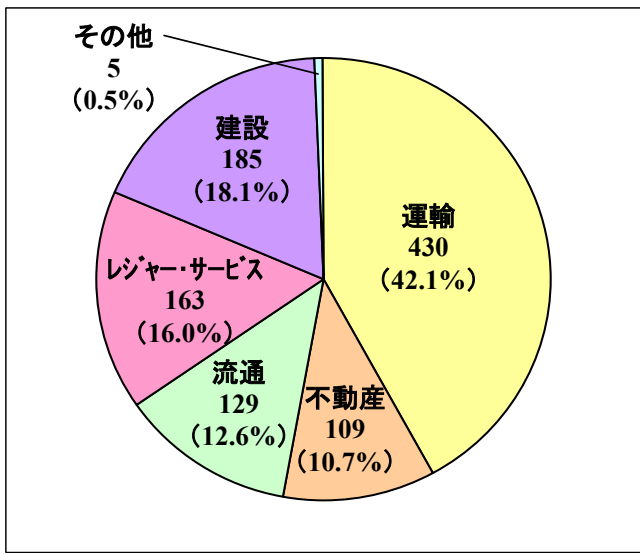
連結子会社の増加 1社:南海ライフリレーション株式会社

関連会社の増加 1社:PT. NANKAI AGL

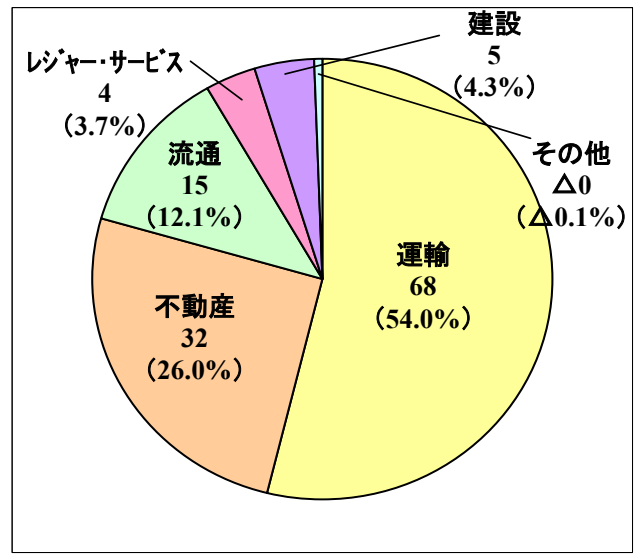
運輸業 (30社)	不動産業 (4社)	流通業 (8社)	レジャー・サービス業 (23社)	建設業 (5社)	その他の事業 (4社)
--------------	--------------	-------------	---------------------	-------------	----------------

※当社は複数セグメントに重複して含まれております。

営業収益 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

1) セグメント別営業収益

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率
運 輸 業	42,082	43,068	986	2.3
不 動 産 業	11,167	10,976	△190	△1.7
流 通 業	12,511	12,909	398	3.2
レジャー・サービス業	16,542	16,373	△168	△1.0
建 設 業	18,951	18,563	△388	△2.1
そ の 他 の 事 業	547	507	△40	△7.3
調 整 額	△12,338	△13,311		
合 計	89,463	89,087	△375	△0.4

※2012年4月1日付で実施した駅ビジネス再編に伴い、セグメント区分を一部変更しており、前第2四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えたとうえで算出しております。

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

2) セグメント別営業利益

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率
運 輸 業	5,275	6,816	1,541	29.2
不 動 産 業	3,410	3,279	△130	△3.8
流 通 業	866	1,529	663	76.5
レジャー・サービス業	416	465	48	11.7
建 設 業	539	540	0	0.2
そ の 他 の 事 業	20	△16	△37	—
調 整 額	26	△81		
合 計	10,555	12,532	1,977	18.7

※2012年4月1日付で実施した駅ビジネス再編に伴い、セグメント区分を一部変更しており、前第2四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えたとうえで算出しております。

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

3) 運輸業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率	増減理由
鉄道事業	27,320	27,870	550	2.0	●鉄道事業及びバス事業 東日本大震災や台風からの回復に加え、LCC就航便数増加に伴い増収
軌道事業	707	706	△1	△0.2	
バス事業	12,038	12,482	443	3.7	
海運業	985	997	12	1.2	
貨物運送業	1,845	1,794	△51	△2.8	
車両整備業	2,202	2,199	△2	△0.1	
調整額(セグメント内)	△3,016	△2,980			
営業収益	42,082	43,068	986	2.3	
営業利益	5,275	6,816	1,541	29.2	

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

鉄道旅客収入と輸送人員表

(単位:百万円・千人・%)

全 線			2011年9月期	2012年9月期	増減率
旅客収入	定 期	外 期	14,542	15,110	3.9
	定	期	11,511	11,428	△0.7
	合	計	26,054	26,538	1.9
輸送人員	定 期	外 期	42,591	43,569	2.3
	定	期	71,080	70,992	△0.1
	合	計	113,671	114,561	0.8

(単位:百万円・千人・%)

空港線			2011年9月期	2012年9月期	増減率
旅客収入	定 期	外 期	1,569	1,958	24.8
	定	期	550	562	2.2
	合	計	2,119	2,520	18.9
輸送人員	定 期	外 期	1,868	2,364	26.6
	定	期	1,720	1,771	3.0
	合	計	3,588	4,135	15.2

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

4) 不動産業の実績 (減収減益)

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率	増減理由
不動産賃貸業	9,289	9,093	△196	△2.1	●不動産賃貸業 賃料収入の減少による減収 ●主な利益内訳 不動産賃貸業 3,744(△55) 不動産販売業 △480(△79)
不動産販売業	1,935	1,949	14	0.7	
調整額(セグメント内)	△57	△66			
営業収益	11,167	10,976	△190	△1.7	
営業利益	3,410	3,279	△130	△3.8	

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

5) 流通業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率	増減理由
ショッピングセンターの経営	4,951	4,832	△118	△2.4	●ショッピングセンターの経営 本年3月にしんかなCITYの営業を終了したこと等による賃料収入の減少による減収
駅ビジネス事業	7,105	7,226	120	1.7	
その他	1,009	1,552	542	53.8	●その他 本年3月に完全子会社化した南海リテールプランニング㈱による増収
調整額(セグメント内)	△555	△701			
営業収益	12,511	12,909	398	3.2	
営業利益	866	1,529	663	76.5	

※2012年4月1日付で実施した駅ビジネス再編に伴い、セグメント区分を一部変更しており、前第2四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えたうえで算出しております。

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

6) レジャー・サービス業の実績 (減収増益)

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率	増減理由
遊園事業	746	726	△19	△2.7	●ボートレース施設賃貸業 舟券売上の減少による減収 ●ビル管理メンテナンス業 設備工事の減少による減収 ●その他 葬祭事業の店舗数増加による増収
旅行業	941	960	19	2.0	
ホテル・旅館業	511	542	31	6.2	
ボートレース 施設賃貸業	2,481	2,315	△166	△6.7	
ビル管理メンテナンス業	9,515	9,171	△343	△3.6	
印刷業	394	400	6	1.7	
広告代理業	544	550	5	1.0	
その他	2,468	2,768	299	12.1	
調整額(セグメント内)	△1,062	△1,063			
営業収益	16,542	16,373	△168	△1.0	
営業利益	416	465	48	11.7	

※2012年4月1日付で実施した駅ビジネス再編に伴い、セグメント区分を一部変更しており、前第2四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組み替えたうえで算出しております。

2. セグメント別の状況(2013年3月期 第2四半期)

7) 建設業の実績 (減収増益)

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率	増減理由
建設業	18,955	18,585	△370	△2.0	●建設業 保全物件の処分に伴う売上の減少による減収
調整額(セグメント内)	△3	△21			
営業収益	18,951	18,563	△388	△2.1	
営業利益	539	540	0	0.2	

8) その他の事業の実績 (減収減益)

(単位:百万円・%)

	2011年9月期	2012年9月期	増減額	増減率	増減理由
その他	550	509	△41	△7.5	
調整額(セグメント内)	△2	△1			
営業収益	547	507	△40	△7.3	
営業利益	20	△16	△37	—	



3. 2013年3月期の業績予想

3. 2013年3月期の業績予想

1) 業績ハイライト

(単位:百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期			増減理由
		期初予想額	修正予想額	期初予想との差異	
営業収益	181,869	196,700	193,000	△3,700	●営業収益 流通業やレジャー・サービス業の成長 戦略における事業計画の見直しにより 減収
営業利益	18,294	19,700	21,100	1,400	
経常利益	11,067	12,200	14,100	1,900	●営業利益 運輸業の鉄道事業やバス事業におい て増益
当期純利益	5,686	6,400	7,900	1,500	
投資額	21,849	46,900	36,500	△10,400	●投資額 成長戦略投資の見直しにより減少
減価償却費	22,239	21,000	20,600	△400	
EBITDA※	40,533	40,700	41,700	1,000	●有利子負債残高 投資額の抑制による減少
有利子負債残高	480,346	496,000	489,300	△6,700	
有利子負債残高 ／EBITDA倍率	11.9倍	12.2倍	11.7倍		

※ EBITDA=営業利益+減価償却費

3. 2013年3月期の業績予想

2) セグメント別営業収益

(単位:百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期			増減理由
		期初予想額	修正予想額	期初予想との差異	
運 輸 業	84,394	84,800	85,300	500	●運輸業 鉄道事業、バス事業における LCC旅客増による増収
不 動 産 業	24,592	25,100	25,000	△100	
流 通 業	25,040	27,600	26,300	△1,300	●流通業 成長戦略における事業計画の 見直しにより減収
レジャー・サービス業	33,741	37,000	35,100	△1,900	
建 設 業	39,009	45,000	45,700	700	●レジャー・サービス業 成長戦略における事業計画(ビル 管理メンテナンス業)の見直し により減収
そ の 他 の 事 業	1,402	1,700	1,800	100	
調 整 額	△26,310	△24,500	△26,200		
合 計	181,869	196,700	193,000	△3,700	

※2012年4月1日付で実施した駅ビジネス再編に伴い、セグメント区分を一部変更しており、前連結会計年度の数値を変更後のセグメント区分に組み替えうえで算出しております。

3. 2013年3月期の業績予想

3) セグメント別営業利益

(単位:百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期			増減理由
		期初予想額	修正予想額	期初予想との差異	
運 輸 業	10,348	9,900	11,200	1,300	●運輸業 鉄道事業、バス事業における増収及び人件費等の経費削減による増益
不 動 産 業	5,093	5,500	5,600	100	
流 通 業	1,544	2,200	2,600	400	●流通業 広告宣伝費等の経費削減による増益
レジャー・サービス業	616	1,200	1,000	△200	
建 設 業	867	1,000	1,100	100	●レジャー・サービス業 ビル管理メンテナンス業における減収による減益
そ の 他 の 事 業	151	100	100	—	
調 整 額	△328	△200	△500		
合 計	18,294	19,700	21,100	1,400	

※2012年4月1日付で実施した駅ビジネス再編に伴い、セグメント区分を一部変更しており、前連結会計年度の数値を変更後のセグメント区分に組み替えうえで算出しております。

3. 2013年3月期の業績予想

4) 運輸業 鉄道旅客収入と輸送人員表

(単位:百万円・千人・%)

全線		2012年3月期 実績	対前年 増減率	2013年3月期 期初予想	対前年 増減率	2013年3月期 修正予想	対前年 増減率
旅客収入	定期外	29,047	△1.2	29,557	1.8	29,667	2.1
	定期	22,548	△1.6	22,516	△0.1	22,445	△0.5
	合計	51,596	△1.4	52,073	0.9	52,112	1.0
輸送人員	定期外	85,466	△1.3	86,491	1.2	86,512	1.2
	定期	138,018	△1.1	137,694	△0.2	137,711	△0.2
	合計	223,484	△1.1	224,185	0.3	224,223	0.3

(単位:百万円・千人・%)

空港線		2012年3月期 実績	対前年 増減率	2013年3月期 期初予想	対前年 増減率	2013年3月期 修正予想	対前年 増減率
旅客収入	定期外	3,215	△1.3	3,442	7.1	3,688	14.7
	定期	1,085	△4.0	1,129	4.1	1,115	2.8
	合計	4,301	△2.0	4,572	6.3	4,804	11.7
輸送人員	定期外	3,829	△2.1	4,142	8.2	4,512	17.8
	定期	3,414	△3.7	3,545	3.8	3,514	2.9
	合計	7,243	△2.9	7,687	6.1	8,026	10.8



4. 中期経営計画「凜進130計画」 の進捗状況

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

「凜進130計画」の基本方針と数値目標(2011年度～2014年度)

基本方針

- ① 観光・インバウンドビジネスの推進
- ② 不動産・流通事業の拡大
- ③ 新たな事業領域への進出
- ④ なんばのまちづくり推進
- ⑤ グループ経営基盤の強化

数値目標(最終年度2015年3月期)

- ① 連結営業収益 2,300億円 以上
- ② 連結経常利益 130億円 以上
- ③ 連結有利子負債残高／EBITDA倍率 10倍台

※ EBITDA=営業利益+減価償却費

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

①観光・インバウンドビジネスの推進(1/2)

◇LCC旅客の取り込み

◆鉄道事業

・ピーチ・アビエーションと連携

ピーチの機内限定で、関西空港から難波方面への割引乗車券「Peach・なんばきっぷ」を発売

・関空から近畿各地への「アクセスきっぷ」発売

大阪市内・京都・奈良・神戸といった関西全域への割安な乗車券を発売し、鉄道利用の拡大を図る

◆バス事業

・ターミナル間シャトルバス運行(2012年10月)

・リムジンバス路線の早朝・深夜便対応

(2012年3月、5月)

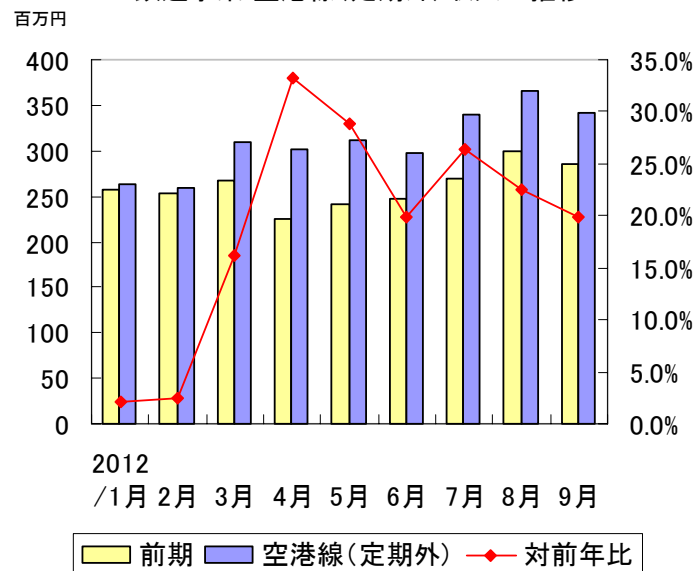
・関空の第2ターミナル(LCC専用)ビルへ

リムジンバス路線の一部延伸(2012年10月)

・リムジンバス路線の増便

「京都線」(2012年10月)、「梅田線」「神戸線」(2012年12月)

鉄道事業 空港線(定期外)収入の推移



※トピックス

2012/3 ピーチ・アビエーション運航開始

2012/7 ジェットスター・ジャパン運航開始

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

①観光・インバウンドビジネスの推進(2/2)

◇観光・インバウンド需要の取り込み

◆受入基盤の整備

- ・関空駅「南海ツーリストサポートセンター」にて営業を開始し、インバウンド商品引き換えの利便性向上

◆インバウンド商品の開発、販売強化

- ・高野山など当社グループのリソースを活用した着地型商品を開発し、専用パンフレットやウェブサイトで販売
- ・上海駐在員を配置、メディカルツアー他の現地エージェントへの営業強化

◆訪日外国人観光客の誘客

- ・「ポートレース住之江・ナイトツアー」大手旅行代理店で取扱い開始、訪日外国人旅行者への営業強化
- ・韓国大手旅行会社ハナツアーを通じて流通施設クーポン券を発売し、なんば商業施設へ誘客

◆世界遺産熊野エリアの観光拠点新設

- ・和歌山県新宮市に「瀨峡めぐりの里 熊野川」開業(2012年7月)
「古道歩きの里 ちかつゆ」と連携し、南紀地区事業の売上拡大を図る



インバウンド旅客向けパンフレット



瀨峡めぐりの里 熊野川

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

②不動産・流通事業の拡大(1/3)

◇新規賃貸物件の取得

◆首都圏のオフィスビルを中心に取得検討中

◇既存事業のブラッシュアップ

◆オフィスビル「パークスタワー」の競争力強化
施設改修等による競争力強化の取り組み

◆太陽光発電事業用地としての土地活用
「南海いずも台住宅地」の一部を、太陽光発電施設を
運営する三井物産株式会社に賃貸、発電事業に活用

◇マンション分譲事業の拡大

◆沿線エリア内外においてマンション分譲事業を展開

物件名称	物件所在地	物件戸数	竣工予定日
デラッセ天王寺玉造(※1)	大阪市天王寺区	56戸	2012年12月
神戸三宮ブリーズレジデンス(※2)	神戸市中央区	56戸	2013年3月
ヴェリテ永和駅前	東大阪市	69戸	2013年8月
ヴェリテ帝塚山万代	大阪市住吉区	44戸	2013年10月

(※1)全戸完売 (※2)他社との共同事業物件



パークスタワー

太陽光発電事業用地概要

所在地	和歌山県東牟婁郡串本町
面積	約38,720㎡
賃貸期間	20年間
発電量	約2メガワット



ヴェリテ永和駅前(イメージ)

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

②不動産・流通事業の拡大(2/3)

◇収益基盤の拡充 ～小売・飲食事業等の強化・拡大、PM機能強化～

◆駅ナカ事業の沿線外展開

大阪の大動脈「御堂筋線」、3大ターミナル「梅田・なんば・天王寺」の駅ナカプロジェクト推進。
天王寺の全11区画について出店店舗内定。梅田・なんばについても順調に進捗

事業対象場所	オープン時期	延床面積
大阪市交通局御堂筋線 天王寺駅	2013年4月頃	約618㎡
大阪市交通局御堂筋線 なんば駅	2013年10月頃	約986㎡
大阪市交通局御堂筋線 梅田駅	2014年4月頃	約496㎡



天王寺駅（イメージ）

◆文具小売事業への進出

「なんばCITY」に1号店を開業。沿線内外における商業施設やオフィスビル等に順次出店、2016年度に10店舗体制を目指す
【1号店概要】

店名：スタイルディー なんばCITY店

営業開始日：2012年9月15日

年間売上目標：3千万円

事業スキーム：当社が店舗の経営主体を担い、㈱デルタジムサービスに運営を委託



スタイルディー

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

②不動産・流通事業の拡大(3/3)

◇既存商業施設のブラッシュアップ

◆なんばCITYの本館地下2階フロアの活性化

日常生活のニーズが高く、周辺店舗への波及効果が期待できる高級スーパーの「成城石井」をはじめとした全6店舗(約530㎡)を新たに誘致し、デイリーニーズにも対応したライフスタイルゾーンを構築。本館地下2階フロアへの集客強化及びフロア内での買い回りを強化



成城石井

◆なんばCITY・なんばパークスの利用促進

大阪エリア間競争に対抗すべく、大規模なリニューアルや定期的な改装・催し以外にも、共通ポイントカードを導入するなど、顧客サービスをより一層強化することで両施設間の買い回りを促進し、集客増・売上増を図る

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

③新たな事業領域への進出(1/1)

◇現行事業の周辺事業、新規事業や公共関連ビジネスへの展開

◆サービス付き高齢者向け住宅事業への参入

沿線でお住まいのシニア層の方々に、良質な住環境と介護サービスを提供するサービス付き高齢者向け住宅の第1号施設である「南海ライフリレーションあびこ道」を開業予定

施設名称	南海ライフリレーションあびこ道
施設所在地	大阪市住吉区(グループ会社社有地)
営業開始日	2013年夏(予定)
居室数/延床面積	90室/約3,700㎡
業務提携	㈱四国ライフケア



概観(イメージ)

◆ビル管理メンテナンス業における受注拡大

ビルメンテナンス業や指定管理者制度を中心に新規管理物件を獲得

主な新規管理物件

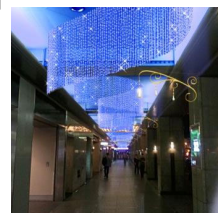
施設名称	運営開始	施設所在地
堺市都市緑化センター	2012年4月	大阪府堺市
生駒市生涯学習施設	2012年7月	奈良県生駒市

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

④なんばのまちづくり推進(1/2)

◇なんばエリアにおける地域協働

- ◆なんばエリアのイルミネーション「なんば光旅」
ひかりたび
 なんばエリアの魅力・価値向上、名所化を目的に、
 大阪最大級(LED約36万球)のイルミネーションを新設
 共同: 株式会社高島屋、スイスホテル南海大阪
 期間: 2012年11月16日～2013年2月17日

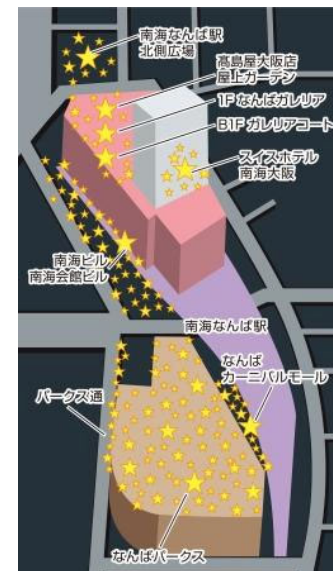


南海会館ビル
(イメージ)

- ◆エリアプロモーション
 なんばエリアへの誘客を目的に、共同キャンペーン
 「NAMBA FASHION FESTA」を開催(9月)
 共同: 株式会社高島屋、
 株式会社Zeppライブエンタテインメント



なんばパークス(イメージ)



イルミネーション実施位置図

- ◆「とんぼりリバーウォーク」の管理運営
 ミナミ全体の回遊性を向上させ、集客効果を高めるため、
 様々なイベントを開催し、なんばエリアを活性化
 ・オープニングイベント「とんブラ2012」(6月)
 ・高野山開創1200年「1000日前」千日大法会(7月)など開催



とんぼりリバーウォーク 30

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

【なんばエリアマップ】



4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

④なんばのまちづくり推進(2/2)

◆主な取組み

2003年



2009年



2012年



2019年



なんばエリアの新たな価値創造

都市機能の充実による国際化対応と周辺地域、
施設との相乗効果を図り、「なんば」の価値向上を目指す



パークスタワー



なんばパークス



南海ビル外壁再生



なんばガレリア



フレイザーレジ
デンス南海大阪



なんばCITY
再生リニューアル



Zepp Namba (OSAKA)



南海なんば第1ビル
南海電気鉄道株本社
(大阪府立大学入居
2013年4月開学予定)



新南海会館ビルイメージ
(建替推進中)

- 2003年 9月 パークスタワー開業
- 2003年10月 なんばパークス第1期開業
- 2007年 4月 なんばパークス全館グランドオープン
- 2009年 9月 南海ビル外壁美装化工事完成
- 2009年10月 なんばガレリア誕生
- 2010年10月 サービスアパートメント「フレイザーレジデンス南海大阪」開業
- 2011年 4月 なんばCITY再生リニューアルグランドオープン
- 2011年 7月 南海会館ビル建替え先行工事着手
- 2012年 4月 Zepp Namba(OSAKA)開業
- 2013年 1月 南海なんば第1ビル竣工(予定)

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

⑤グループ経営基盤の強化(1/2)

◇効率的な事業体制の構築

◆生産性向上施策の推進

要員数、工事費削減等による効率的な事業運営体制を構築する

◆不採算事業からの撤退

レンタカー事業から撤退することにより収支改善を図る(2012年10月)

◆ゴルフ事業の再編

ゴルフ場運営会社2社を南海ゴルフマネジメント株の傘下におさめ、運営体制の効率化を図る(2012年10月)

4. 中期経営計画「凜進130計画」の進捗状況

⑤グループ経営基盤の強化(2/2)

◇「安全・安心の追求」「サービスの向上」

◆新型ATSの整備等、安全投資を実施

- ・2011年度実績： 67億円
- ・2012年度計画： 約70億円

◆駅バリアフリー化整備工事の推進

- ・2011年度：美加の台駅をはじめとする5駅で整備完了
- ・2012年度：和歌山市駅で整備

◆南海本線・泉大津市内の下り線高架化(2012年8月) 泉大津市内の踏切8箇所除去、交通渋滞や踏切事故の解消を図る



美加の台駅バリアフリー化整備



泉大津連立

IRのお問い合わせ先

南海電気鉄道株式会社

〒542-8503 大阪府中央区難波五丁目1番60号

経営政策室 経営企画部(IR担当)

TEL:06-6644-7105 FAX:06-6644-7108

URL:<http://www.nankai.co.jp/>

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。本資料で記述しております業績予想及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確定要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。